浜坂地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年８月２０日（木）　１９：００～２０：１５
２　会　場　浜坂地区公民館
３　出席者　地元出席者　　３９名
市側出席者　　１２名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進監、藤井都市整備部長、高橋秘書課長、塩谷政策企画課創生戦略室長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン（素案）についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

６　地域の重要課題について
１　浜坂団地内バス通り融雪装置の整備について
＜地域課題＞
①融雪装置の整備について
　現在敷設されている融雪装置が、パイプの目詰まりや水源の水量不足等で肝心な時に機能を発揮できていない。
②冬期間の路線バスの運行経路について
　上記の状況により、路線バス運行の経路が冬期間変更されて団地内を経由しないため、多くの利用者が不便をかこっている。とりわけ、高齢者等の弱者にとっては影響が大である。

＜担当部局の所見等＞
①融雪装置の整備について
【都市整備部】
　以前、融雪装置の水源地は２か所ありましたが、設備の破損により現在の水源地は１か所となっています。平成２６年度に第１水源地の取水量低下の原因を調査した結果、井戸のスクリーンの目詰まりが起因と想定されたため、井戸洗浄を行ったところ取水量が増加し、一部配管工事を実施することで坂道部分の消雪はできるようになりました。しかし、井戸洗浄により取水口の目の間隔が広くなり、異物が入って再び目詰まりを起こす可能性があるため、全線の消雪を行うために必要な水量を取水することができない状態です。
　このため、新たな水源で不足量を確保することとし、旧第２水源跡地周辺において平成２７年秋頃から調査ボーリングを実施する計画としております。

なお水量が確認されれば、平成２８年度に工事を行う予定としております。

②冬期間の路線バスの運行経路について
＜担当部局の所見等＞
【都市整備部】
十六本松線の運行事業者である日本交通（株）にお伝えしたところ、次のとおりの回答がありました。
［日本交通（株）］
十六本松線はみどり町を経由するルートとしていますが、冬期間はみどり町を経由せず下の県道１８３号線を通るルートとしています。これは、路面の凍結により事故が危惧されることや、道路が狭く積雪により通行が困難になることなどからルートを変更しているものです。
今後、十分な安全や通行の確保が確認できるようであれば、ルートの見直しを検討していきたいと考えます。

本市としても、バス事業者の判断に従いたいと考えております。

（都市整備部長）
浜坂団地内の融雪装置の水源地は、以前は２か所ありましたが、設備の破損により現在は第１水源地の１か所になっています。昨年度、この第１水源地の取水量の低下の原因を調査した結果、井戸のスクリーンの目詰まりが起因と想定されたため、井戸の洗浄を行ったところ取水量が増加し、一部の配管工事を行うことで、図の濃いピンク色の部分の消雪はできるようになりました。

しかし、井戸の洗浄を行うことによって取水口の目の間隔が広くなり、異物が入って再び目詰まりを起こす可能性があるため、全線の消雪を行うために必要な水量を取水することができない状況です。このため、新たな水源から不足する水量を確保することとしており、今年の秋頃から、浜坂公園近くの旧第２水源地跡地周辺において調査ボーリングを実施する計画です。必要な水量の取水が可能と確認できれば、平成２８年度に工事を行う予定にしています。
冬期間の路線バスの運行経路については、十六本松線を運行しているバス事業者である日本交通株式会社にお伝えしました。日本交通株式会社からは、「十六本松線はみどり会町内会を経由するルートとしていますが、冬期間はみどり会町内会を経由せず、県道１８３号鳥取砂丘線を通るルートとしています。これは、路面の凍結による事故が危惧されることや、道幅が狭く積雪によって通行が困難となることなどからルートを変更しているものです。今後、十分な安全や通行の確保が確認できるようであれば、ルートの見直しを検討していきたいと考えます。」とのことでした。
本市としても、バス事業者の判断に従いたいと考えています。

（地元意見）
第１水源地は、以前は自噴していました。しかし最近はもう自噴もなくなっているので、水量は全体的に少なくなっていると思います。旧第２水源地跡地周辺で調査ボーリングを実施するとのことだが、第１水源地の状況や周辺の地形的なことを考えると、本当に水が出るのか、もう少し専門家に地域を見てもらった方がよいと思います。

（都市整備部長）
いただいたご意見を踏まえ、調査の際には専門家の意見をしっかり聞きながら進めたいと思います。

（地元意見）
浜坂地区では、冬になれば雪が降るのは当たり前のことです。だから、調査や設計、ボーリングは夏の暑い時期に実施して、１２月２０日頃までには工事を完了し、冬の降雪に間に合わせるのが常道ではないでしょうか。今年実施するボーリングも、あてになるのでしょうか。
旧第２水源地は、融雪装置ができた当時は水源でした。そこが枯渇するからと、新しく第１水源地を求めたのです。地元住民から聞いたところによると、第１水源地も、量は少なくなってはいるが、それでもまだ常時水はあるだろうとのことです。こういった地元住民の意見も聞いて進めないと、今後も、ボーリングしてみるまで役に立つかどうか分からないといった、今までと同じことがまた何年も繰り返されていくと思います。
また、第１水源地がポンプアップにより目詰まりを起こしているが、砂地なのだから当然の話です。全国の積雪寒冷地などの視察調査などもして、装置が役に立つようにしてもらわなければ、住民が困ります。

（都市整備部長）
調査の際には専門家の意見をお聞きするとともに、地元の皆様が一番よく状況を知っておられますので、皆様のご意見もその都度伺いたいと思います。水源を見つけて工事し、できるだけ来年の冬には使用できるよう努力したいと思います。

（地元意見）
水が出ない場合には、上水道の水を融雪装置に転用してはどうでしょうか。今日の懇談会には水道事業管理者が出席していないようだが、これも一つの方法だと思います。夏と違い、冬期であれば水道水が枯渇することはありません。そうでもしなければ、住民は本当に困っています。

（担当課補足：道路課）
１か月に１５日間の散水を３か月間おこなうと仮定し仮計算をしましたが、多額な費用が必要となり実施困難です。地下水の取水が困難な場合は、機械での除雪を検討します。

（地元意見）
直近でいうと、平成２６年度の冬に降雪でバスが上がれないような状況だったのは、１日か２日程度だったと思います。その１日か２日のために、冬期間はずっと上がらないのですか。全国的な問題だと思うが、高齢化が進み、バスがなければ生活できない人もたくさんいます。
冬期間はずっと上がらないというのではなく、その日の状況で、だめな日だけ「今日は上がらない」とはっきり明示するという方法にしてほしいです。

（都市整備部長）
そのことについては、バス事業者との協議の際にも話をしました。しかし、天候によってルートを変更すると混乱が生じるため、冬期間は下を通行すると決めておいた方が乗客も心配されることがないとのことで、バス事業者としては、期間内は下を通行したいとのことです。融雪装置がしっかり稼働するようになれば、バスも上まで上がれるようになると思いますので、まずは水源の確保に努めたいと思います。

（地元意見）
町内会でも、冬期間はずっと上がらないということは回覧し、会合でも伝え、周知徹底しているつもりです。それにも関わらず、上まで上がらないことを知らない人もいます。せめてどこかに、「この期間は上がらない」ということを、はっきり明示してほしいです。

（都市整備部長）
バス事業者と話をし、連携して周知方法を考えたいと思います。

（担当課補足：交通政策課）
バス事業者においては、現在も冬期、夏期ともに、通らないルートのバス停は青のナイロン袋で覆い、通過しない旨を明示されています。

（地元意見）
私は、ここの団地に創設当時から住んでいます。自動車免許を返上したので、今の移動手段は自転車かバスです。冬期間は運行しないという通知は昨年も今年も届き、私もそのつもりだったが、やはり非常に不便を感じています。私の妻が買い物をしてバスで帰って来ても、荷物が重くてバス停から家まで持ち歩けないため、必ず事前に電話を受けて迎えに行き、自転車で荷物を運んでいます。バスが来るか来ないかで、生活の度合いが大変変わってきます。除雪については、何度も単独で市に相談に行きました。担当係長は、返事は前向きだったが一度も調査に来たことがありません。浜坂は、冬は本当に住む所ではないと思います。

（地元意見）
バス事業者としては公共交通の問題なので、上には上がれないと言うだろうが、市として、住民に応えられるような制度を検討してほしいです。

バスが通行できないのは、融雪路が使用できないのが発端です。しかし、たしかに大型バスは通行できないかもしれないが、マイクロバス程度の自動車であれば、プロのドライバーでなくても、雪が降る中、事故もなく走行しています。

そこで、一定期間は代替できるものを住民が使用できる、つまり、一定期間はプロの自動車を常時使用できるよう提案してはどうでしょうか。バス事業者であれば大型バス以外にもタクシーなど、利用できる自動車がチャーターできると思います。具体的な手段としては、助成制度も考えられると思います。

今は、工事がいつになるか分からない、完成がいつになるか分からないという話ばかりで、一方通行になっているように感じます。ただバスが通らないと言って終わりで、代替案を検討しないのかと思います。もっと柔軟なアイデアを検討し、浜坂住民が住みやすい環境にシフトしてほしいです。

（深澤市長）

公共交通をいかに確保し維持していくかということは、今後、高齢化社会を迎えるにあたり非常に重要な課題だと、我々は常々思っています。

一定期間、少し小さな車両で運行してはどうかというご提案については、バス事業者に相談してみたいと思います。相談させていただかなければ可能かどうか分かりませんが、柔軟にいろいろな方法を検討することは非常に大切だと思います。

まずは、何よりも水源の確保について、早急に取り組んでいきたいと思っています。先ほど上水道を活用するという提案もありましたが、水源予定地の他にも、利活用できる水源がどう確保できるかということも含めて、いろいろな方法を検討してみたいと思います。

（担当課補足：交通政策課）

小型バスについては、バス事業者各社とも保有台数が少なく、現在、通常の運用にも苦慮しているとともに、更新の目処がたっていない状況にあります。

したがって、十六本松線に割り振る余裕は全くない状況であるため、小型バスによる解決は難しいと考えております。

2　県道・市道の歩道拡幅について

＜地域課題＞

歩道がきわめて狭隘な箇所があり、登校時に子ども達が歩道からはみ出して通行する状況が多発している。そのために、何時も事故の危険性と隣り合わせである。できる事なら地区内の県道の歩道を拡幅整備していただきたい。

①県道　浜坂団地入口～八丁目地内について

②市道　浜坂森下商店～浜坂団地入口について

①県道　浜坂団地入口～八丁目地内について

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

県道管理者である鳥取県に確認したところ、下記の回答がありましたのでお知らせしま

す。
[鳥取県回答]
　県道の歩道拡幅については、「鳥取市通学路交通安全プログラム」に位置付けられるなど緊急度の高い区間から順次整備を行うこととしています。
　県道鳥取砂丘線の要望区間のうち、浜坂小学校入口交差点から因幡自転車道線横断部付近までの約２５０ｍの区間については、狭い片側歩道で路肩部も狭く、また小中学校の通学路として利用されていることから、昨年度、「鳥取市通学路安全対策推進協議会」による合同点検を実施しました。
　その結果、対策必要箇所として「鳥取市通学路交通安全プログラム」に位置づけられましたので、今年度から歩道設置のための測量・設計を行う計画です。

　本市としましては、鳥取県に対し事業推進を要望していくとともに、実施予定区間以外についても問題の早期解決を要望してまいります。

　②市道　浜坂森下商店～浜坂団地入口について
＜担当部局の所見等＞
【都市整備部】
　森下商店から浜坂団地入口（市道丸山浜坂１号線）については、昨年度、鳥取市通学路安全対策推進協議会の通学路合同点検を行いました。
　その際に、浜坂小学校側への歩道新設の要望がありましたが、袋川側に歩道があることから、新設は難しいと回答しています。
　今年８月にも、通学路合同点検を行いました。要望は既設の歩道を拡幅する内容でした。そのためには、隣接地の用地提供や建物移転などの解決すべき課題がありますが、皆様の声を聴きながら検討したいと考えます。

（都市整備部長）
　浜坂団地入口から浜坂八丁目地内の県道鳥取砂丘線の歩道拡幅について、県道を管理する鳥取県に確認したところ、「県道の歩道拡幅については、鳥取市通学路交通安全プログラムに位置付けられるなど、緊急度の高い区間から順次整備を行うこととしています。県道鳥取砂丘線の要望区間のうち、浜坂小学校入口交差点から因幡自転車道横断付近までの約２５０ｍの区間については、狭い片側歩道で路肩部分も狭く、小中学校の通学路としても利用されていることから、昨年度、鳥取市通学路安全対策協議会による合同点検を実施しました。その結果、対策必要箇所として鳥取市通学路交通安全プログラムに位置付けられましたので、今年度から歩道設置のための測量設計を行う計画です。」という回答がありました。本市としても、鳥取県に対して事業推進を要望していくとともに、その他の区間についても問題の早期解決を要望していきたいと考えています。
　森下商店さんから浜坂団地入口の市道丸山浜坂１号線の歩道拡幅については、昨年度、鳥取市通学路安全対策協議会による合同点検を行いました。その際、浜坂小学校側への歩道新設の要望がありましたが、袋川側に既設の歩道があることから新設は難しいと回答しています。今年度も、８月７日に通学路の合同点検を行いました。

今回は、浜坂小学校側への歩道新設ではなく、既設の歩道の拡幅の要望をいただいています。隣接地の用地提供や建物移転など、解決すべき課題はありますが、地域の皆様の声をお聞きしながら検討したいと考えています。

3　浜坂団地内における投函用郵便ポストの設置について

＜地域課題＞

多くの住民が生活する浜坂団地中心部にポストが無く、車を運転しない住民や高齢者などは手軽、身近にポストがないために、不便な生活を強いられている。住民からは、地区公民館近辺に設置を望む声が聞かれる。

＜担当部局の所見等＞

【総務部】

現在、浜坂地区内には８か所にポストが設置されています。内訳は簡易郵便局２局、中央病院１基、路上等４基、コンビニエンスストア内１基です。

鳥取中央郵便局にポストの設置について問い合わせたところ、次のような回答がありました。

[鳥取中央郵便局]

郵便ポストの設置は、住宅が連担する市街地では、概ね直線距離５００ｍ以上の間隔で行っており、浜坂地区内は既存の郵便ポスト数によってこの基準を満たしているため、新たな設置は行いません。なお、住民の意向があり、設置する土地が確保されれば、既存の郵便ポストの移設は可能です。

郵便局としても、住民の皆様のご要望に対してご説明したいと思いますので、ご相談ください。

（総務部長）

現在、浜坂地区内には８か所に郵便ポストが設置されています。そのうち、この近くでは、浜坂西簡易郵便局、伴酒店、谷口酒店、浜坂小学校から鳥取砂丘こどもの国方面に上がる道路の角、ローソンの中に設置されています。以前は、浜坂西簡易郵便局がもっと北側にあったとのことなので、そちらにも郵便ポストがあったのでしょうが、局の移転に合わせてなくなった状況だと思います。

鳥取中央郵便局にご要望をお伝えしたところ、郵便ポストは、住宅が連担する市街地では概ね直線距離５００ｍ以上の間隔で設置しており、浜坂地区内は既存の郵便ポスト数により基準を満たしているため、現時点では、新たな設置は考えていないとのことでした。

なお、住民の皆様の意向、要望および合意があり、設置する土地が確保されれば、簡易郵便局にあるポストは移設できませんが、その他の既存の郵便ポストについては移設が可能とのことです。その際の移設経費については郵便局が負担されるそうです。郵便局としても、住民の皆様の要望に対してご意見を伺ったり、ご説明したいと考えているので、ご

相談くださいとのことでした。市としても、ご意向があれば仲介をさせていただきたいと思います。

（地元意見）

郵便ポストの位置は５００ｍ間隔で設置されているという説明だったが、浜坂地区公民館の東側一帯は浜坂団地で、３２０世帯あります。その奥には第２団地、第３団地と、町内会が２つあり、浜坂団地と合わせると３つの町内会が存在しています。しかしポストは南側に集中していて、北側５００世帯程度の人は遠くまで行かなければならず不便です。距離ではなく、ポストの周辺に存在する宅地、世帯数に合わせて設置してもらわなければいけないと思います。

旧浜坂西簡易郵便局の跡地の少し北に大きな三叉路があり、角は公共空地です。一部はごみ集積場になっているが、横には普通自動車が３台から４台程度駐車できるほど土地の余裕があるので、そこにポストを設置してもらえれば、浜坂団地も第２団地も第３団地も非常に便利になると思います。住民が日々大変困っているという切実な状況を市から郵便局に説明していただき、設置が実現するようにしてください。

（総務部長）

既設の郵便ポストを移設するとなれば、今郵便ポストが近くにある方のお気持ちもあるため、簡単にこれを移設すればよいという問題でもないかもしれません。本日いただいたご意見については、お気持ちとして郵便局にお伝えしたいと思います。必要であれば郵便局も説明されるとのことですので、その中でまた調整させていただければと思います。

※後日、地元と鳥取中央郵便局の間で協議され、谷口酒店前のポストを浜坂地区公民館敷地内へ移設されることが決まりました。現在は早期の移設に向け準備中です。

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

以前は一つの町村だったが市町村合併により取り残された地域、または日が当たる部分が少なくなった地域、あるいは、一気に働く層が入ってきたがいつの間にか子ども達もいなくなり平均年齢が高くなった新興団地など、それぞれの地域に大きな課題があると思います。私はまだ６０歳なので自動車の運転ができるが、今後運転ができなくなれば自転車やバスで移動するようになり、雪が降ったらどうしようと心配するようになります。

他の市町村などでは、それぞれの居住地域の年齢構成等を踏まえ、将来像に向かって交通面や福祉面などの総合的な施策や展望を持ち始めている所もあると思います。

鳥取市でも、地区ごとの住民の居住状況や課題が今後一層深刻になってくると思うので、今後も可能な限り、意見交換の場や説明を受けられる機会を継続して持ってほしいです。

（深澤市長）

今後、今まで我々が経験したことのないような高齢化社会が到来します。人口は少しずつ減っていくだろうと予測せざるを得ません。それをいかに食い止めていくかということ

を、今しっかりと取り組んでいかなければなりませんが、その効果が具体的に表れてくるのは１０年か２０年先になります。

鳥取市では２０２５年と２０４０年の人口推計を出していますが、どうしても少子高齢化が進展していきます。それぞれの地域、地区で細かく見ていくと、いろいろな特性があります。浜坂地区の高齢化率は全市的な平均より低いですが、やがてこれも高くなっていくだろうということも予測されます。それに伴い、公共交通を今後いかに確保し維持していくかということも考えなければいけませんし、福祉対策も考えていかなければいけません。

鳥取市は今年度、いろいろな取り組みをスタートさせたところです。地域の特性や地域特有の課題もあると思います。この地域づくり懇談会に限らず、引き続き、地域の皆様のさまざまなご意見をしっかりと伺っていきたいと思います。

（地元意見）

７月１６日に台風１１号が接近した際､「自主避難所を設置した」というあんしんトリピーメールが届きました。

新市域の自主避難所は、地区公民館や総合支所などに１か所ずつ開設されましたが、鳥取地域は人口が１５万人いるにも関わらず、千代川以東の教育センターと、千代川以西の学習・交流センターの２か所しか開設されませんでした。

ゲリラ豪雨や気候の変動による災害、また、浜坂地区では浜坂一丁目と浜坂東一丁目には土砂災害警戒区域がありますが、そういうことも含め、鳥取地域に２か所しか自主避難所を設置しないのは、あまりにも少ないのではないかと思います。

今回自主避難所に指定した基準と、今後見直しにより自主避難所を増やすなどの考えがあるかについて聞きたいです。

（深澤市長）

市内各所には、従来からいろいろな災害に対応した避難所を設けており、それぞれ状況に応じて開設し、職員が対応するという方法をとっていました。今回１０か所の自主避難所を開設したことは新たな取り組みであり、早い段階で開設しておくことで一番近い所に避難していただけるようにしたものです。初めての取り組みですので、避難状況や利用状況、職員の配置体制等も勘案しながら、今後、必要に応じて積極的に見直しをしていきたいと考えています。

（防災調整監）

夜間や、風が強くなってからの避難は危険を伴うため、とにかく早めに避難していただきたいということで自主避難所を開設したところ、気高地域で２名、鹿野地域で２名の自主避難がありました。周知方法に問題がなかったかということも含め、利用状況などを検証しながら、何とか定着させたいと考えています。

（地元意見）

千代川は明治時代以降に何度も氾濫し、河口のつけかえをして今日に至っていると何か

の折に調べました。以前の千代川は重箱緑地の辺りを通っていて、狐川の辺りや松並町の方からぐっと曲がっていた、また、江戸年間には大水で人が鳥取の旧市内から賀露港の方まで流されたため、溺死者の碑が町内に建っているという有名な話もあります。

最近の災害は、地震も津波もゲリラ豪雨も、予想もしないようなことが起きています。台風も同様の心配があります。河川改修などが綿密になされてきて、安全対策は相当なされているとは思うが、地域住民が安心しきっているのは少し心配です。

３００mmや５００mmといった想像もできない量の雨が降り、千代川や袋川が氾濫した場合などは、重箱緑地の辺りが遊水地になっていると思うが、地域住民が不安にならないよう、「どの程度の降水量であればこういった対応が必要だ」といった、住民側に指揮できるような情報提供や啓発などが必要だと思います。

最後は、自分の命は自分で守らなければいけないので、情報を地域で共有することが大切ではないでしょうか。

（防災調整監）

浜坂地区を始め、それぞれの地区で防災マップを作成しておられます。この防災マップは、日頃から皆様に危険箇所を知っておいていただき、その上で、災害発生時にはどう行動するかを考える際に活用していただくために作成していただいています。

この他、総合防災マップもお配りしていますし、市役所危機管理課では消防職員のＯＢを防災コーディネーターとして採用しており、日頃から、地域の訓練や地域が危険箇所を見て回る際などにお手伝いをしています。今後も、こういった取り組みを継続していきたいと考えています。

（地元意見）

福部地区に、小中一貫校の話が出ていると聞いたことがありますが、今後こういった形で鳥取市に小中一貫校がどんどん増えていくのか、あるいは試験的なものなのか、どういう方向で進むのですか。

試験的なものであれば、５年、１０年先の高校入試の状況等によって成果が評価されることになると思います。しかし入学希望の学校が偏れば、地域の小学校の子どもが少なくなり、クラスの複合などのしわ寄せが出てくることも考えられるのではないでしょうか。人口推計で全体の人口が減少すると予想されているので、子どもの数も減少していくと思います。

（深澤市長）

正確には福部は小中一貫校ではなく、全国的にも珍しい幼稚園、小学校、中学校が一貫となった幼小中一貫校です。来年４月からのスタートを目指し、現在は地域の皆様と一緒になって準備を進めていこうとしているところです。

この形が良いのではないかということになった大きな要素として、一つは少子化の問題があります。また、それぞれの地域の特性を活かした取り組みや、その学校ならではの取り組みをしていこうということで、例えば福部地域では、小学校という早い段階から外国語、特に英語を身に付けていくなど、これからの国際化の時代に相応しい教育一貫校なら

ではの取り組みをしていってはどうかなど、将来を見据え、夢を語り合いながら進めていこうとしています。

良い点や悪い点などの効果については検証して評価し、良い点があれば進めていくことになると思いますが、地域の皆様のいろいろな思いやお考えもあるので、しっかりと客観的に検証しながら取り組んでいかなければいけないと思います。

小中一貫校については、制度として進めていこうということを国も打ち出したところです。地域の皆様が小中一貫校でいくべきではないかというご意見であれば、鳥取市としても教育委員会としても、その意向を基に取り組ませていただきたいと思っています。

総合戦略で、国は「まち・ひと・しごと」を謳っていますが、鳥取市は「ひと」が一番大事だと思っています。一貫校をどんどん増やしていこうというような状況ではありませんが、人材育成については、地域ならでは、鳥取市ならではの特徴を活かしながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

（地元意見）

最近ずっと、全国的にいじめが問題になっています。これについて、教育委員会はどういう体制をとっていますか。夏休み明けの９月以降に、各小中学校に対してどういう指導をしますか。

（深澤市長）

いじめに関する対策や防止策については、教育委員会だけでなく市長部局も一緒になって、しっかりと取り組んでいかなければいけないと考えています。いじめの事象が発生してからではなく、まず、いじめが起きない、いじめを許さない学校であってほしいという思いで取り組んでいきたいと思います。国の法律ができましたので、その法律を基に鳥取市教育委員会も市としての具体的な方針を作っており、今まで以上に防止に取り組んでいきたいと思います。

（地元意見）

今日、初めて地域づくり懇談会に参加したが、市は伝書鳩のように感じました。地区から事前に出されていた課題を業者に出し、業者の回答を地域に伝えるということだと思うが、あまりにも市としての取り組みが薄いのではないかと思います。業者と市、そして地区住民とが膝を交えて答えを見つけ出すという会の流れを作ってもらえれば、会に出席して話を聞く意味があるのではないかと感じました。

（深澤市長）

ご提案ありがとうございます。大事なことだと思います。伝書鳩のようだという表現もありました。例えば今回のバス事業者や郵便局のように相手方がある場合は、我々も多少そういう状況にならざるを得ない部分もあるかと思いますが、正確にお伝えすることが必要だと考えています。

自ら皆様の元に出向き、膝を交えながら、感性を研ぎ澄まして皆様のいろいろなご意見をしっかりと伺うという姿勢は、常に持っておかなければならない我々の基本的な部分だ

と考えていますので、そのように努力したいと思っています。

８　市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。大変限られた時間の中で、非常に熱心にご質問やご提言をいただき、ご議論いただいたことに、心から感謝申し上げます。

今日は、融雪装置や道路歩道の整備、公共交通の維持確保など予めいただいていた課題に加え、防災など多岐にわたりいろいろなご意見をいただきました。できるところからしっかりと速やかに対応させていただきたいと、職員一同思っております。

ゲリラ豪雨等で、今までなかったような災害の様相を呈することがあるというご意見もありました。先人達は、非常に苦心し努力されてきたと思います。以前は千代川がよく氾濫したという話は、私も先輩方から聞いています。大正年間や昭和に入ってからも、河川の大規模な改修等が行われました。殿ダムも５０年の歳月をかけて完成し、それによって袋川水系の水位がかなり調節できるようになりました。鳥取市が所管している下水道でも、雨水が一度に流れていかないよう、雨水を一時期溜めることができる直径３ｍ以上もある貯留管を地下に埋設しました。大変大きな事業でした。このように目に見えない部分でも、災害が発生しないよう努力しています。そして、国土交通省に対しても河川の改修等を行っていただくよう常に要望し、そしてそのようにしていただいています。千代川水系に限っていえば、鳥取市は全国と比較して水害や浸水被害等が少なくなっている地域だろうと思っています。引き続き、市民の皆様の安全安心を第一に、いろいろな取り組みを行っていきたいと思っています。

限られた時間でしたが、熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。